

能代市小規模小学校の在り方に関する基本方針

平成29年2月

能代市教育委員会

1 基本方針策定の経過

能代市教育委員会は、全市的に少子化が進む現状にあつて、複式学級を有し全校児童数が少ない朴瀬小学校、竹生小学校、崇徳小学校、鶴形小学校、常盤小学校の今後の在り方を探るため、平成27年度に小規模小学校の今後の在り方に関わる世帯アンケートを実施するとともに、各対象小学校の地域懇談会で意見を伺った。

これを受けて、28年度では、この小規模小学校の教育環境や学校運営について検討するため、学識経験者や同窓会役員、PTA役員等からなる能代市小規模小学校の在り方協議会を設置し、協議会としての提言をいただいた。

【主な経過】

- ・H27年6、7月 小規模小学校の今後の在り方に関わる世帯アンケート
- ・H27年10、11月 小規模小学校の今後の在り方に係る地域懇談会（5小学校区）
- ・H28年7月～
H29年1月 能代市小規模小学校の在り方協議会（4回開催）

2 基本方針

能代市教育委員会は、能代市小規模小学校の在り方協議会の未来ある子どもたちの教育環境を最優先に考えた提言を受けて、将来的にも全児童数が30人以下で続く小規模小学校については、統合を進める。ただし、統合目標年度は平成31年度とするが、今後の小規模小学校地域懇談会等での意見を踏まえ調整できるものとする。

※30人以下とした理由

小学校1年生を含む場合の複式学級は、2学年合わせて8人までを1学級編制とする基準があるため（例：1年生4人、2年生4人）、1学年5人以上を想定し、 $5人 \times 6学年 = 30人$ とした。

なお、2～6年生では、2学年合わせて16人までが1学級編制となる。

【統合校と統合目標年度】

統合対象小学校	統合目標年度	統合先候補小学校	備考
朴瀬小学校	平成31年度 (平成31年4月1日)	向能代小学校	
竹生小学校			
崇徳小学校		第五小学校	
鶴形小学校			
常盤小学校	全校児童数が30人以下で続くと判断した時期		

3 基本方針を進めるための配慮等

統合が行われるまでの期間、学校間での交流事業等を積極的に実施し、円滑に統合が進むよう配慮するとともに、登下校の安全確保やP T A組織等の課題を検討するため、P T A及び学校関係者による小学校統合準備委員会をそれぞれに設置する。

【検討事例】

- ・スクールバスの運行
- ・P T A組織や行事
- ・閉校事業の実施等

4 今後のスケジュール

平成29年2月 教育委員会臨時会
文教民生委員会協議会
小規模小学校地域懇談会（5地区）

平成29年4月～

平成31年3月 学校間交流事業等の実施及び小学校統合準備委員会の設置

5 参考資料一覧 ※小規模小学校の在り方協議会等の提出資料

- 資料1 小規模小学校の児童数の推移
- 資料2 平成28年度県内小学校の複式学級保有数
- 資料3 学校間距離
- 資料4 これまでのアンケート結果
- 資料5 小規模小学校の在り方協議会における意見（4回までのまとめ）
- 資料6 小規模小学校の今後の在り方についての提言

小規模校の児童数の推移（平成28年度～平成34年度）

資料1

H29. 1. 1現在

学校名		学年別児童数							計	対前年度比	対28年度比
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	(特)			
朴瀬小	H28年度	3	2	6	3	0	5	(0)	19	—	—
	H29年度	6	3	2	6	3	0	(0)	20	1	1
	H30年度	3	6	3	2	6	3	(0)	23	3	4
	H31年度	3	3	6	3	2	6	(0)	23	0	4
	H32年度	4	3	3	6	3	2	(0)	21	▲2	2
	H33年度	1	4	3	3	6	3	(0)	20	▲1	1
	H34年度	3	1	4	3	3	6	(0)	20	0	1
竹生小	H28年度	4	3	6	3	7	1	(0)	24	—	—
	H29年度	2	4	3	6	3	7	(0)	25	1	1
	H30年度	2	2	4	3	6	3	(0)	20	▲5	▲4
	H31年度	2	2	2	4	3	6	(0)	19	▲1	▲5
	H32年度	3	2	2	2	4	3	(0)	16	▲3	▲8
	H33年度	1	3	2	2	2	4	(0)	14	▲2	▲10
	H34年度	5	1	3	2	2	2	(0)	15	1	▲9
崇徳小	H28年度	1	4	4	3	2	5	(2)	19	—	—
	H29年度	5	1	4	4	3	2	(1)	19	0	0
	H30年度	2	5	1	4	4	3	(1)	19	0	0
	H31年度	1	2	5	1	4	4	(1)	17	▲2	▲2
	H32年度	4	1	2	5	1	4	(0)	17	0	▲2
	H33年度	1	4	1	2	5	1	(0)	14	▲3	▲5
	H34年度	6	1	4	1	2	5	(0)	19	5	0
鶴形小	H28年度	3	3	1	0	4	6	(0)	17	—	—
	H29年度	2	3	3	1	0	4	(0)	13	▲4	▲4
	H30年度	2	2	3	3	1	0	(0)	11	▲2	▲6
	H31年度	4	2	2	3	3	1	(0)	15	4	▲2
	H32年度	0	4	2	2	3	3	(0)	14	▲1	▲3
	H33年度	3	0	4	2	2	3	(0)	14	0	▲3
	H34年度	1	3	0	4	2	2	(0)	12	▲2	▲5
常盤小	H28年度	10	4	5	6	10	12	(1)	47	—	—
	H29年度	1	10	4	5	6	10	(1)	36	▲11	▲11
	H30年度	7	1	10	4	5	6	(1)	33	▲3	▲14
	H31年度	2	7	1	10	4	5	(0)	29	▲4	▲18
	H32年度	5	2	7	1	10	4	(0)	29	0	▲18
	H33年度	7	5	2	7	1	10	(0)	32	3	▲15
	H34年度	5	7	5	2	7	1	(0)	27	▲5	▲20

平成 2 8 年度 県内小学校の複式学級保有数

能代市教育委員会

複式学級・・・文部科学省令の小学校設置基準第五条

「小学校の学級は、同学年の児童で編制するものとする。ただし、特別の事情があるときは、数学年の児童を一学級に編制することができる。」

複式学級の基準・・・1年生を含む場合 8人までを1学級編制とする

1年生を含まない場合 16人までを1学級編制とする

No.	市町村名	学校名	複式	学年の組み合わせ	児童数	割合
1	能代市	朴瀬小学校	2	1・2・3・4・⑤・6	19	12校中5校 (41.7%)
		竹生小学校	2	1・2・3・4・5・6	24	
		崇徳小学校	2	1・2・3・4・5・6	19	
		鶴形小学校	2	1・2・3・④・5・6	17	
		常盤小学校	1	1・2・3・4・5・6	47	
2	三種町	下岩川小学校	2	1・2・3・4・5・6	34	6校中1校(16.7%)
3	鹿角市	末広小学校	2	1・2・3・4・5・6	20	9校中2校 (22.2%)
		草木小学校	2	1・2・3・4・5・6	27	
4	大館市	矢立小学校	2	1・2・3・4・5・6	41	17校中1校(5.9%)
5	北秋田市	阿仁合小学校	2	1・2・3・4・5・6	31	10校中2校 (20%)
		大阿仁小学校	2	1・2・3・4・5・6	27	
6	秋田市	太平小学校	2	1・2・3・4・5・6	40	42校中5校 (11.9%)
		上新城小学校	2	1・2・3・4・5・6	20	
		豊岩小学校	1	1・2・3・4・5・6	48	
		下浜小学校	1	1・2・3・4・5・6	55	
		岩見三内小学校	1	1・2・3・4・5・6	57	
7	大仙市	太田北小学校	1	1・2・3・4・5・6	43	21校中1校(4.8%)
8	仙北市	中川小学校	2	1・2・3・4・5・6	48	7校中2校 (28.6%)
		桧木内小学校	1	1・2・3・4・5・6	56	

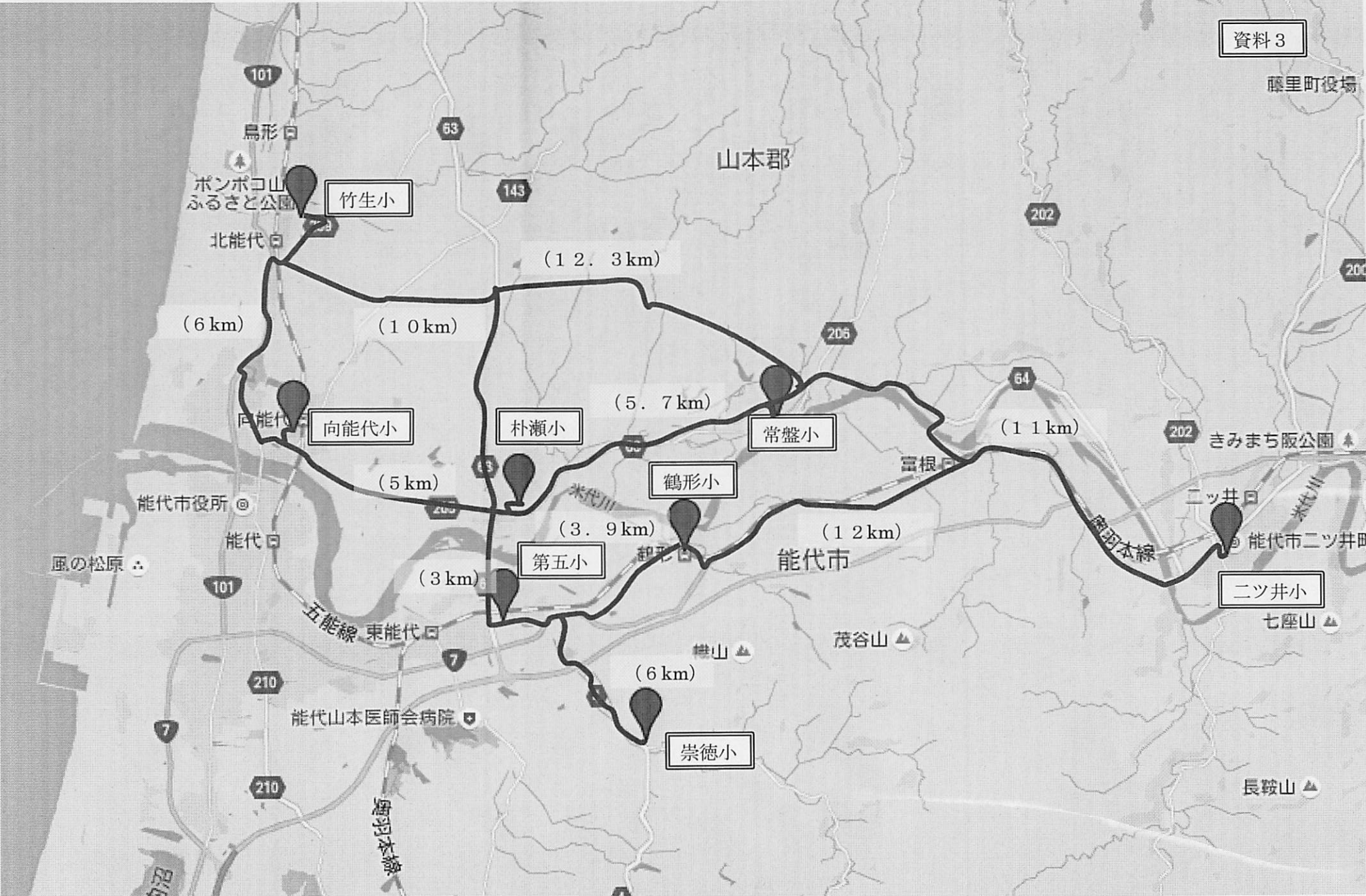
※学年の丸数字⑤、④はその学年の児童数が0人であることを表す。

参考…秋田県内25市町村の人口と小学校数(平成28年7月1日現在)

市町村名	人口	小学校数	市町村名	人口	小学校数	市町村名	人口	小学校数
鹿角市	31,259	9	秋田市	315,228	42	大仙市	81,812	21
小坂町	5,334	1	男鹿市	28,679	6	仙北市	26,788	7
大館市	73,246	17	潟上市	32,920	6	美郷町	19,751	3
北秋田市	32,605	10	五城目町	9,314	1	横手市	90,557	17
上阿仁村	2,289	1	八郎潟町	5,958	1	湯沢市	46,091	11
能代市	54,040	12	井川町	4,927	1	羽後町	14,971	4
藤里町	3,371	1	大潟村	3,066	1	東成瀬村	2,629	1
三種町	16,739	6	由利本荘市	78,718	14	※反転は複式学級のある市町		
八峰町	7,170	2	にかほ市	25,024	6			

資料 3

藤里町役場



(1) 小規模小学校の今後の在り方に関わる世帯アンケート 平成27年6～7月実施

区 分	割 合	人 数	回答者674/配布世帯1,728 (回収率39.0%)
現状維持を望む	41.7%	281人	
統合等が必要	57.4%	387人	
その他	0.9%	6人	

世帯アンケートの内<現在児童(0～12歳児)がいる家庭>

区 分	割 合	人 数	回答者119
現状維持を望む	50.8%	60人	
統合等が必要	48.3%	58人	
その他	0.8%	1人	

世帯アンケートの内<現在児童がいない家庭>

区 分	割 合	人 数	回答者555
現状維持を望む	39.6%	220人	
統合等が必要	59.5%	330人	
その他	0.9%	5人	

(2) 就学前乳幼児の保護者対象アンケート 平成28年9月実施

区 分	割 合	人 数	回答者45/配布数76 (回収率59.2%)
現状維持を望む	33.3%	15人	
統合等が必要	66.7%	30人	
その他	0%	0人	

(3) ニツ井小統合後に関するアンケート(保護者対象) 平成28年1～2月実施

区 分	割 合	人 数	回答者123/配布数197 (回収率62.4%)
統合してよかった	75.6%	93人	
統合してよかったと思わない	4.9%	6人	
よくわからない	17.9%	22人	

(4) ニツ井小統合後に関するアンケート(ニツ井中生徒対象) 平成28年7～8月実施

区 分	割 合	人 数	回答者187/配布数197 (回収率94.9%)
統合してよかった	71.1%	133人	
統合してよかったと思わない	3.7%	7人	
よくわからない	24.6%	46人	

【7/13 第1回・8/31 第2回会議での意見】

区分	現状維持	統合	その他
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でも切磋琢磨 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での環境ギャップ ・児童数は限界 ・集団学習効果（切磋琢磨） ・競争力の芽生え ・統合前の合同授業実施 ・統合して安心・安全な教育環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級での児童数の少なさ
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のカラーを出す力 ・少人数での関わりの深さ、他人が見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的関わりの低下 ・楽しかった。統合での問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの順応性
学校行事		<ul style="list-style-type: none"> ・統合前の交流会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状としての他校との合同行事、交流を。
友だち関係		<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多い友だち ・統合で他地域の友だちが増加（子どもの順応性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士はすぐ仲良しになる。 ・統合後のアンケート、友だちが多い。
部活動			<ul style="list-style-type: none"> ・統合後のアンケート、部活動ができる。
通学面		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス通学の安心感 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が課題
PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持してほしい ・デメリットを感じない 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声を大事に、統合を早急に。 ・時代として避けられない。保護者が一番いい方向で。 ・PTA活動の話し合い ・地域、保護者との課題協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解と納得
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域行事の拠点 ・児童との交流が生きがい ・地域ぐるみで学校支援 ・地域の喜びは学校の喜び ・地域とのつながりの希薄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が元気なうちに伝統継承 ・難しい人もいるが、子ども達を考え、早く道筋を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の核
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前に学区外への転出 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合先の心配 ・小規模同士の統合 ・高校統合でもほぼ同じ意見 ・学校の組み合わせが問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合後のアンケート、肯定的な意見が多い。 ・子ども達にとっての理想的な教育環境を視点に。 ・統合後の問題はない。 ・納得できる学区の編成 ・常盤中学校の統合が先 ・最終的には、高等学校は県北に2校

【10/26 第3回会議での意見】

<p>未来ある子どもたちの教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがこれから育って行く上での社会性、性格の違う子どもたちと生活して行くことが必要であり、ある程度人数がいた方がいい。統合は必要だと感じている。 ・小規模小学校では、多様な考えを交換し合い主体的に取り組む学習がしづらいことや、学校行事やスポーツ活動等に制限されることが危惧される。 ・前の二ツ井のアンケートでは、統合してよかったという結果だった。乳幼児を持つ親のアンケートでも統合が多い。この数字は重いものだと思う。 ・できれば小規模小学校は維持してほしい。複式学級は、学習面では手厚く指導されるし、学校行事の役割も多い。上下や地域とのつながりがある。 ・地域環境が大切だと思っているが、子どもたちの教育環境を考えれば方向性が見えてくる。
-----------------------	---

【1/19第4回会議での意見】

未来ある 子どもたち の教育環境	<ul style="list-style-type: none">・小規模校を残したい気持ちだったので、統合となると複雑な思いがある。・地域や他校との交流をやることで、社会性が不足しがちになることは補えるのではないか。・それぞれの学校が元気うちに統合の準備を進めた方がよい。・過去に統合した経験からいうと、統合によるデメリットは少ないと思われる。・提言案に賛成する。二ツ井小統合時のアンケート結果が、統合後の児童や保護者の気持ちをよく表している。・統合後の教育環境や、教育活動に配慮してほしい。・地域懇談会で理解を得るように説明し、地域や保護者の要望を聞き取ってほしい。
------------------------	--

平成 29 年 1 月 19 日

能代市教育委員会 様

能代市小規模小学校の在り方協議会

小規模小学校の今後の在り方についての提言

本協議会において、小規模校小学校の今後の在り方について、全委員で話し合いを重ねてきたところであるが、いろいろな意見が出され結論を導くのは大変難しい作業であった。

現在、複式学級を有する小規模小学校では、それぞれに工夫された授業や学校行事等が行われ、児童の学力も概ね良好な状況であると言える。

しかし、「未来ある子どもたちの教育環境は」とした話し合いの中では、小規模小学校の今後の教育環境として、人間関係の固定化により、社会性が不足しがちなことや、多様な考えを交換し合う学習が展開しづらいこと、学校行事やスポーツ活動等の集団での活動が制限されることなどを危惧する意見が出され、未来ある子どもたちのことを考えれば統合を進めるべきとの声が大勢を占めた。

また、保護者や地域住民等を対象とした各種アンケート結果でも、統合が必要との意見が回答者の過半数を超えている状況であることから、本協議会としては次のとおり提言する。

能代市教育委員会は、未来ある子どもたちの教育環境を最優先に考え、複式学級を有しかつ現状の少人数が将来的に続く判断した小規模小学校については、統合の方向で検討すべきである。

その際、次のことに配慮してほしい。

- ①地域懇談会を開催し、統合に向けての各地域の要望等を把握し、その対応に努めること
- ②これまで培われてきた小学校と地域との関係性について、統合後も可能な範囲で継続できるよう配慮すること
- ③スクールバスの運行等により、児童の登下校の安全性を確保すること